

第8章 「反シオニズム」と「反ユダヤ主義」は似て非なるもの ——若い米軍兵士アーロン・ブッシュネル氏の焼身自殺



ミシガン大学のスタジアムでおこなわれた卒業式で、「大量虐殺への資金提供」に反対するスローガンを叫び、パレスチナ国旗を掲げる学生。パレスチナ支持の「白地に紺の水玉模様の豆絞りの布」を首にかけている

<https://www.rt.com/news/597007-palestine-protest-michigan-university/>

1

イスラエル軍はついにガザ地区の南端のラファ侵攻を始めました。これはなぜでしょうか。これについて私は次のように考えています。

すなわち、ネタニヤフ政権はガザ住民を北部地区から殺していつて、それに恐怖を感じた住民が南部のラファに集まった時点で軍隊を侵攻させ、住民のすべてを皆殺しにすれば「民族浄化」が完成するというわけです。

他方で、「死にたくなければエジプトに逃げ出せ。そうすれば住居を保証する」とも言っているようです。そしてエジプト政府にも、ガザ住民を受けとるように裏で圧力を強めている、という話も聞こえてきます。こうしてガザ地区から住民のすべてがいなくなれば、この地区にパレスチナ人がいなくなるわけですから、これは別のかたちで「民族浄化」が完了したことになります。そうすればガザ沖合に眠る天然ガスの開発はイスラエルのものになります。

いずれにしても、これで一つの目的、すなわち「民族浄化」は達成されたことになります。と同時に、それは「大イスラエル Great Israel」をつくりあげる確実な一歩を進めたことにもなります。

2

しかし、ここに大きな問題が起きています。それは世界の世論がイスラエルのあまりの蛮行に抗議を始め、それが確実に広まり始めたことです。

ロシア軍がドンバスの2カ国を正式に認め、その政府の要請でウクライナに軍を進めたときは、世界の世論は「ロシア非難」に集中し、ウクライナ支援の募金箱が日本のコンビニにまで置かれました。

ウクライナで戦争が始まったのは、実は「クーデター二〇一四」で成立したキエフ政権のドンバス攻撃だったのですが、そういうことを知らない多くのひとたちは、口を極めて「プーチン独裁政権」を糾弾しました。

が、徐々に真実が明らかになるにつれて、ゼレンスキー大統領の「残虐さ」「独裁ぶり」を指摘する論調も現れ始め、「キエフ政権が臓器売買まで黙認していること」「ウクライナ軍の敗北が確実だということ」まで指摘する大手メディアすら出始めました。

とはいえ、ここまでたどりつくのに2年以上もかかっているのです。

3

ところがイスラエルの蛮行が世界の眼に届くには1年もかかりませんでした。いまではウクライナ支援の募金箱ではなく、パレスチナ支援の募金箱まで見かけるようになりました。

バイデン政権やEU諸国の幹部が、「ホロコーストを経験したユダヤ人の国イスラエルは自衛する権利がある」といくら弁護しても、イスラエル軍の残虐ぶりはX（旧Twitter）やFacebookを通じて、世界中に知れわたり始めたからです。

これはウクライナ情勢とは大きな違いです。ゼレンスキー政権の「残虐さ」「腐敗ぶり」は、大手メディアがほとんど伝えないのでほとんど誰も知らず、XやFacebookを通じてしか、世界に広まりようがなかつ

たからです。

それを唯一伝えてきたのは、「ロシアのNHK」にあたる国際放送局「RT」ぐらいですが、それを欧米諸国は「視聴禁止」にしているのですから、一般民衆は知りようがありません。私の研究所が『翻訳NEWS』というサイトを運営しRTのニュースその他を紹介してきた理由も、まさにここにありました。

それはともかく、このようにイスラエルの蛮行も、今まで弱小国・発展途上国だと思われていた南アフリカ政府が勇気をふるって、イスラエルの行為は「戦争犯罪」だとしてICJ（国際司法裁判所）に提訴したことも、世界の世論を変えるのに貢献しました。

ICJも「イスラエル軍の行為は戦争犯罪と言われても仕方がないものだ」「即座に中止せよ」という判決を出したからです。

それにしても岸田政権の「アメリカにたいする属国」ぶりは困ったものです。

だからこそバイデン大統領は日本の世論^{II}岸田政権への反発を打ち消そうと、「日本人は外国人嫌い・移民恐怖症だ」という侮蔑的なことばを私たちに吐いたのかもしれない。

* Japan upset over Biden's 'xenophobia' claim - media (バイデン氏の「外国人嫌悪」主張に日本が動揺—メディア)
<https://www.rtl.com/news/597019-japan-upset-biden-xenophobia/> 5 May, 2024

4

一貫してネタニヤフ政権を支持してきたバイデン大統領にとって、さらに困ったことは、単に世界の世論が変わり始めたことだけではありませんでした。



パレスチナ支援の「ケフィエ」

というのは、アメリカ国内でも、全米の有名大学で「イスラエルの蛮行に資金援助や武器援助をするな」「イスラエルに対してBDS運動を！(Boycott不買運動、Divestment株の引上げ、Sanctions経済制裁)」と呼びかける声が確実に広がっていることです。

先日イスラエルの「民族浄化作戦」に抗議して、ミシガン大学スタジアムでおこなわれた卒業式で、学生たちが「大量虐殺に資金提供をするな」というスローガンを叫んだニュースが流れました。

* Pro-Palestine protesters disrupt college commencement ceremony, VIDEOS (親パレスチナの学生が大学の卒業式を妨害*ビデオあり)
<https://www.rt.com/news/597007-palestine-protest-michigan-university/> 4 May, 2024

本章の冒頭に掲げた写真を見ていただければお分かりのように、学生たちはパレスチナの旗を掲げ、首にはパレスチナ支持の布地(スカーフ)を巻いて、堂々と巨大なスタジアムを行進しているのです。

しかも彼らは少人数ではなく多数の学生の参加も得ていることが動画で分かります。次の動画も1分足らずのもので、ぜひ見てください。

<https://twitter.com/i/status/1786785990901633346> (動画12秒)
<https://twitter.com/i/status/1786796720313000248> (動画28秒)

パレスチナ支援のやりかたは、募金箱を通じるだけでなく、調べ

てみると、UNRWA（国際連合パレスチナ難民救済事業機関）を通じて「ケフイエ」と呼ばれるスカーフなどを売るといふやりかたでもおこなわれていることが分かりました。

先の動画で学生たちが「ケフイエ」を身につけていることも、ご自分の眼で確認してください。

5

昨日（二〇二四年五月四日）アメリカは突然イスラエルに対する武器の輸送を一時凍結することを発表しました。バイデン大統領は以上のような世界と国内の動きに恐れをなしたのでしょいか。

* US froze military aid shipment to Israel - Axios（アメリカはイスラエルへの軍事援助を凍結 - Axios）
<https://www.rt.com/news/597037-military-aid-israel-frozen/> 5 May, 2024

今まで一貫してイスラエル支持をやめたことのなかったアメリカがこのような動きに出ることは極めて異例のことです。このままでは一月に予定されている大統領選挙で勝てなくなると考えたに違いありません。

その兆候はすでに、アメリカ支援による「ガザの虐殺」「民族浄化作戦」に抗議して、若い米軍兵士（空軍現役兵）Aaron Bushnellがイスラエル大使館の前で焼身自殺するという事件に表れていました。

* US airman sets himself on fire outside Israeli Embassy in Washington（空軍現役兵が首都ワシントンDCのイスラエル大使館前で焼身自殺）
<https://www.rt.com/news/593158-man-self-immolates-embassy/> 15 Feb, 2024



この写真は、歩いてイスラエル大使館に向かうアロン・ブッシュネル (Aaron Bushnell) さんです。写真でも分かれるとおり若い現役兵士です。軍服姿のままです。

実はこの写真は、この記事に付けられていた動画（2分30秒弱）を一時停止させて私が切り取ったものです。

この動画で彼はイスラエル大使館に行く道すがら、「自分の行動＝焼身自殺は悲惨なものに見えるかも知れないが、ガザのひとたちが味わっている悲惨から比べれば、どうってことはない」と語っています。

この一部始終を録画したのは誰かをこの記事は書いていないのですが、このあと焼身自殺をする場面と一緒に、下記URLで彼の行動・肉声を視聴できます。

時間のある方はぜひ自分の眼と耳で確認いただきたいと思います。（上の写真は、帽子を脱いで、頭から石油をかけているブッシュネルさんです。）